



はぐくみ

《学校教育目標》 ゆたかな心とたくましい体をもつ子どもの育成

立花北小 校長室だより

令和6年7月9日発行
No.2「立花北小の手紙」
発行者：校長 佐野 正信

「立北の手紙」というお話

7月の朝会でこんなお話をしました。

「今日は『立北の手紙』というお話をします。最近、沢山お返事が返ってきています。いったい立北の手紙って何のことでしょう。

まずはじめに、3年生、手をあげましょう。先月、自然体験事業で伊丹の昆虫館に行きましたが、とってもよいお話を聞きましたよ。小さな保育園の子どもたちも来ていたようですが、先生から言われたでもなく、自分から「私たちが前でよいのですか。代わりましょうか。」とお話しに行った子がいたそうで、園の先生がびっくりされていたそうです。

次に4年生、手をあげましょう。実は4年生も3年生の時、自然体験をした猪名川から帰って来るバスの中でこんなことがあったそうです。疲れているにも関わらず、帰りのバスでお年寄りに席を譲る子がいました。譲られた方ではなく、それを見ておられた方から、「なんて素晴らしいお子さんでしょう。」と学校にお電話がありました。

5年生、手をあげましょう。5年生は昨年、アルカイクホールに音楽会に行きましたが、帰りのバスでは、一番前の子が「次、おばあちゃん乗って来るよ！」と声をかけて、「どうぞ、どうぞ！」とみんなで席を譲り、とても喜ばれていました。「どちらの小学校ですか？」と尋ねられて「立花北小学校です」と答える校長先生は、ちょっと誇らしかったです。

先日の「紫陽花まつり」に行った人、手をあげましょう。とても楽しいお祭りでしたね。お祭りを開いてくださった地域の方からこんなお話を伺いました。祭りの片づけの時のことです。そこに居合わせた6年生が、ヨーヨー釣りの水を紫陽花にあげたり、片づけを手伝ったりしてくれたそうで、「疲れていたのに、ほんまに助かったんですわ」と喜ばれていました。

今日は紹介できませんでしたが、1、2年生の中にも人にやさしくできる素敵な子がきっと何人もいるんだろうな…と校長先生は思っています。ここまでのお話で、わかりましたか。「立北の手紙」というのは、皆さん一人一人のふるまいのことです。皆さんにはお名前がありますが、それとは別に、皆さんの背中には見えない字で「立北の子ども」と書いてあるのです。皆さんが素敵なことをすると、校長先生のところにさっきお話ししたような素敵な「お返事」が帰って来ます。

残念なことに、よいお返事ばかりではありません。人というのは「弱い生きもの」ですから、誰も見ていないところで、ちょこっとボイ捨てをしたり、人に意地悪してしまったりと、「弱い心」が出てしまうこともありますよね。でも、安心してください。人が嫌がることを一つしてしまったら、今度は人のよろこぶことを二つ、三つできるとよいのです。そのことで残念な失敗を消すことができるのですよ。だから、まずは一番近くにいるお友達に、ちょっとやさしさを表現できる子どもになってほしいと思います。そんな「心豊かな立北の子」が沢山増えることを校長先生は、楽しみにしています。」



夏休みに向けて

5、6年生が着衣泳に取り組みました。服を着て靴を履いたまま泳ぐ体験です。子どもたちは「重くて思い通りに動けなかった」「靴をはいていたらバタ足がでなかった」…と口々に感想を述べあっていました。日本の学校では、その昔、水難事故をきっかけに水泳の授業が始まりました。不意に水にはまった時、水着を着ることができませんが、慌てず力を抜き、浮かんで助けを待つなどして、大切な自分の命を守ってほしいと思います。そのための貴重な体験でした。



夏休みが近づいてきました。地域の公園では、子どもたちのために「ラジオ体操」が計画されています。また、8月3、4日には北カリカエ公園で、10、11日には今井公園で今年も「盆踊り」が行われます。それに向けて太鼓の練習に励んでいるお友達もいるそうです。お友達やご家族と一緒に、ぜひ地域行事に参加できるとよいですね！

